

# 名古屋SF読書会14 宝石泥棒 山田正紀 2019・04・27

名古屋SF読書会URL <http://www.ne.jp/asahi/science/fiction/dokusyokai/>

## 【登場人物】(第二章まで)

ジロー……甲虫の戦士。十七歳ぐらい。長い髪を後ろでたばね、手首に腕輪、蛮刀と小さな革袋を持っている。四つのときに父クライマイとマンドールを出て山で暮らす。父が死に、マンドールへ戻る途中にチャクラと出会う。

チャクラ……カルカトン生まれ。すべての部族から離れ、カーストもない放浪者である狂人(バム)の一人。守護神はビーバー。

ラン……鍛冶屋(カウ)の娘であり、ジローのいとこ。生神(クマリ)として選ばれ、ゾウの背に乗り神殿に向かうところをジローが見かけ、ランへの思いを募らせることになる。

三戦士……稲魂(クワン)の従卒。頭に神像の面をかぶり、神とのみ交信する。

ザルアー……女呪術師。頭から牡牛の首をかぶり、猩猩たちを自在に操る。

雲龍……県圃(ケンポ)で一番の実力者。女帝のいとこ。二本の角を備えた冠、丈の短い袴を身につけ、腰に剣をつるし、革長靴をはく。肌は黒く、ガッシリとした体躯であるが、詩人のような容貌をしている。

「女の腹から生まれた者は雲龍にかなわない」と三人の老婆に予言される。守護神は銀ギツネ。

小丑(シャオチュウ)……県圃の宦官。顔に白粉、唇に朱をつけている。妖気を帯びた美少年。

巫抵(ふてい)……県圃の政をつかさどる十巫の一人。ネズミのような老人だが、該博な知識を持つ。

## 【やおろずの神と生き物たち】(第一章)

稲魂(クワン)……最高位の神。ジャングルを焼き、水を引き、肥沃な土地を作って稲を育て、豊饒な収穫を人々にもたらす。実体は浮稲に知性が宿ったもの。

猩猩(しょうじょう)……身長2メートルぐらい。黒い剛毛が全身をおおう。顔は白く、尖った耳、ガラス玉のような眼、口ひげがある。随意筋からなる尻尾が腕のような役割を果たす。

絞殺者(ルアナムティ)……蔓性植物ヴィダーンガから派生した植物。樹木に寄生し、宿主を締めつけ、殺してしまう。果実には強い中毒性があり、口にしたものはこれを食べ続けて栄養失調で死んでしまう。

蹴踢(ちゅってき)……三メートルもある大トンボ。

鱈魚(かつぎょ)……体長四メートルの空飛ぶ魚。サメとエイの中間のような姿をしている。

## 【県圃の神と生き物たち】(第二章)

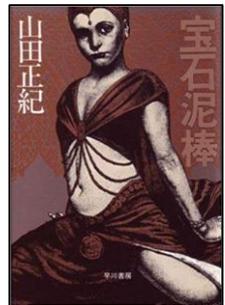
盤古(ばんこ)……混沌を斧の一撃で天と地に分かち、天を支え地を踏みしめている神。実体は人工知能、

馬蝗(ばこう)……体長三メートルの巨大ないなご。

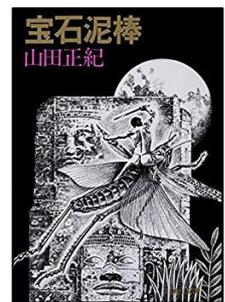
視肉……ブヨブヨしたピンクのかたまり。半透明で繊維の束が内部に見える。いったんこれを食べてしまうと、他の食べ物を受けつけなくなる。

畢方(ひっぽう)……蒼い光に包まれた、薄い寒天のような生き物。身体を変化させて凸レンズとなり、陽光を集めて植物の胞子を燃やす。

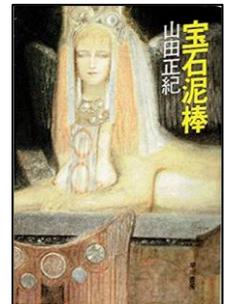
輪輪(れいれい)……乾いた地面を沼地に変えて生き物を飲み込む。



早川書房 1980年  
表紙：角田純男



角川文庫  
1982年  
表紙：福田義隆



ハヤカワ文庫 J A  
1986年  
表紙：佐藤道明

## スタッフ&ゲスト紹介

名古屋SF読書会は初心者からマニアまでをモットーにやさしく丁寧、かつ面白い読書会を目指しています。今後もよろしく願っています。

- 1) 長澤唯史 2) @Sonopapa
- 3) SFではありませんが、朝日カルチャーセンター名古屋教室で「名作をもう一度『老人と海』」という講座を担当します。6/29(土)です。
- 4) クリストファー・プリースト、その他。

- 1) 舞狂小鬼(洞谷) 2) @okiraku\_k
- 3) 山田正紀は好きで結構読んでいたのですが、いつもどこか物足りなさを感じます。今回の読書会でそのあたりの理由が判ると嬉しいです。『宝石泥棒』はいちばん好きな話です。
- 4) レム、バラード、ストルガツキー、ベイリー他

- 1) 渡辺啓一 2) @eleking
- 3) 読書量は減退気味ですが、意欲自体はまだあります。読み残している名作群、イキのいい新作、ともにこの読書会で出会っていきたいと思います。
- 4) ヴァーリイ、スタージョン、プリースト、筒井。

- 1) 渡辺睦夫
- 3) 海外SFファン。洋楽好き。好きな作家はジェイムズ・ティプトリー・ジュニア、コードウェイナー・スミス、キース・ロバーツなど。

- 1) 片桐翔造 2) @gern
- 3) SFマガジンDVDコーナーレビュー担当。最近めつきり映画の人になってしまいました。

- 1) 渡辺英樹 2) @gonza63
- 3) SF作家とは言えませんが、今年は『ハサミ男』で知られるミステリ作家、殊能将之のデビュー20周年に当たります。いろいろイベントをしていこうと思いますので、よろしく願います。
- 4) デーモン・ナイト、上田早夕里

中村融/なかむらとおる(翻訳家)

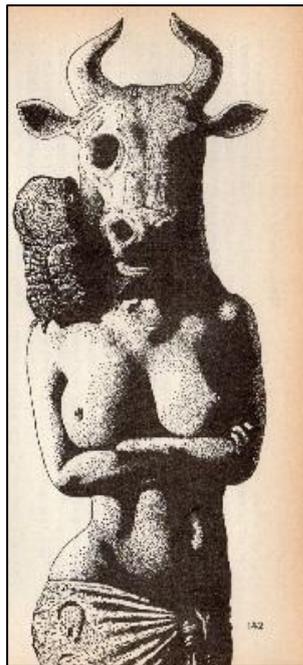
中央大学在学中より海外SFの研究、評論、翻訳など幅広い活動を行う。1987年にジャック・ヴァンスの「五つの月が昇るとき」で翻訳家としてプロデビュー。以降、新作の翻訳紹介、古典の新訳、SF/ファンタジーのアンソロジー編集など、多方面で活躍中。

# 『宝石泥棒』挿絵ギャラリー

SFマガジン連載時の挿絵より  
(すべて角田純男による)



▲生神ラン



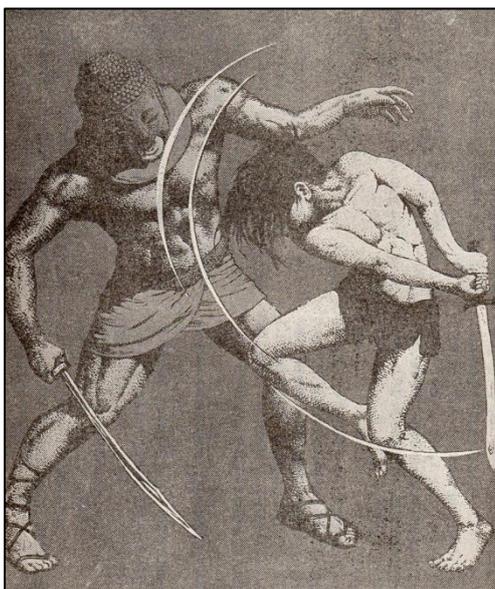
▲女呪術師ザルアー



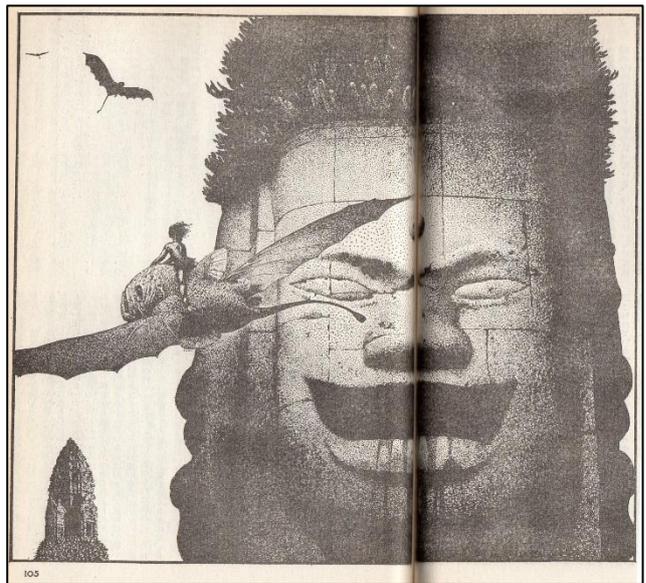
◀ 小丑 (シャオチュウ)



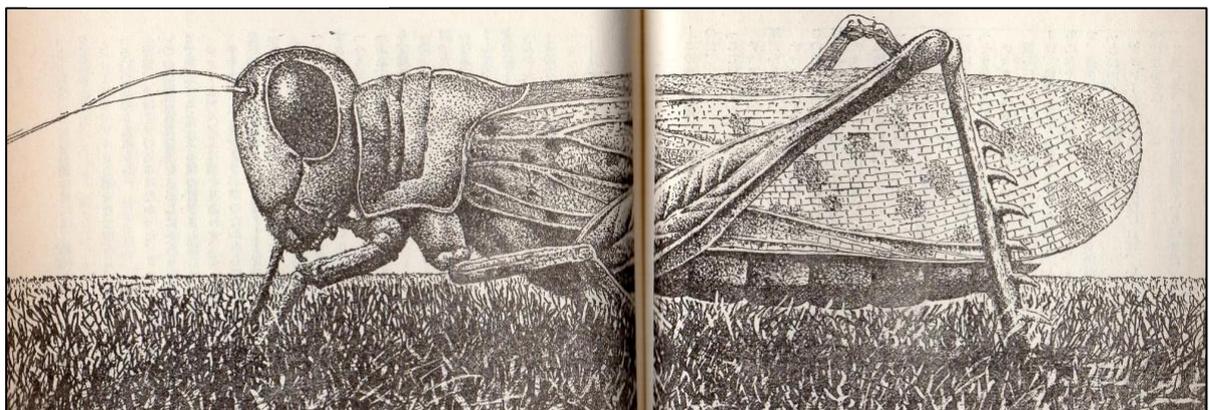
雲龍▶



▲三戦士と闘うジロー



▲鯨魚に乗って神殿へ



馬蝗▶